

令和元年度「教育活動評価」結果の考察

1 学校運営について

(1) 調理科

- 学校スローガンを理解して、その実現に努めているつもりだが、生徒、保護者との差が明らかである。特に調理科生徒の評価が低く、学校生活に満足していると回答する生徒も半数程度にとどまっている。生徒の求めているものに対応できていないのか、自省によるものかを確認して、今後にかかしていきたい。一方で保護者からの満足度は9割に近ことから、期待を裏切らないようにしたい。
- 問題点として「⑤いじめ、暴力の根絶について」を挙げたい。アンケート等の結果を踏まえて個別面談などを実施し、状況の把握や改善に努めているが、助言、相談とともに生徒は教員の働きかけを受け止めていないと想定される数値である。保護者は評価しているようだが、実際に悩みを打ち明ける生徒から信頼されるように、日頃から誠実な姿勢で指導に臨みたい。

(2) 介護福祉科

- 全体的に生徒、保護者とも高い割合で満足しているとの評価である。ただし、例年、いじめ・暴力根絶については、特に保護者の不安が感じられる結果が出ている。昨今の社会情勢の影響もあると思われるが、個々の様子について家庭との連携をこまめにとる必要がある。

(3) 普通科・情報表現コース

- いじめ・暴力の根絶の項目についてだが変則な合同クラスでの生活や、好みの隔たりや個性の強い集まりであるという状況の下、非常にポジティブな回答が多かった。中学時に不登校や学力不振に悩んでいた生徒も多いが、高校生活の中で他者の個性を認めつつ、自分の立ち位置を見つけ始めている様子が窺える。昨年に引き続き先生方の創意・工夫のおかげで、学校への満足度が平均値より肯定的な回答が多いのはコースとしてのあり方に自信が持てる結果となった。しかし、10パーセントに満たないとはいえ、まだまだ悩みながら自分のあり方を模索している生徒もいる。そういった生徒達へのアプローチも忘れずに今の教育活動を継続していきたい。

(4) 普通科・デザインアートコース

- 全体のデータとほぼ同程度である。
- 「学校の満足度」については、生徒の満足度が学校全体よりも高くなっている。

(5) 普通科・総合コース

- 全体的に「当てはまる」「少し当てはまる」という回答が60%を超えており、本校及び本コースの取り組みに理解を示している事を実感している。特に回答「相談・助言」の保護者回答が大きい事は、日々の担任と保護者の連絡・連携が取れている事がうかがえる。反面、生徒との認識に差がみられるものもあった。

(6) 普通科・健康スポーツコース

- 学校運営全般、生徒・保護者共に満足していたと感じた。
- 昨年同様、相談・助言の項目では、生徒の満足度が低かった。部活動での悩みなどを相談できる環境を作っていく必要があるのではないかと感じた。
- 昨年度同様、保護者の「学校への満足度」が高い。生徒も同じように満足してもらえるような取り組みをしていきたい。

(7) 教務部

○ 「学習環境の整備」に関しては、「あてはまる」と回答した保護者が4.7パーセント増、教員が9.5パーセント増と、有意な差が見られた。生徒はほぼ変わらない状況だったため、保護者・教員が感じ始めている変化を生徒にも実感してもらえるような手立てが必要と考える。

(8) 進路指導部

○ 保護者と教職員がある程度一致しているのに対し、生徒の回答が全般的に低い。しかし、いじめに関する項目が教職員と生徒ほぼ同等なのは評価されて良い。

(9) 生徒指導部

○ 「⑤いじめ・暴力の根絶」について、生徒の8割が肯定的であるが、保護者は6割弱と低い。保護者への「いじめ」防止活動取り組みを発信する必要がある。また、生徒の肯定的理解を更に高まるような活動を行っていききたい。

(10) 総務部

○ 安全安心の意識についてアンケート結果より

生徒 → 61%の生徒が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。
24%の生徒が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。
15%の生徒が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。
保護者 → 72%の保護者が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。
10%の保護者が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。
18%の保護者が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。
教職員 → 87%の教職員が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。
10%の教職員が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。
3%の教職員が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。

↓
教職員の意識が高いが、昨年度に比してC・D・Eの回答が8%→13%に増加。

生徒・保護者に関しては、昨年度とほぼ同様だが若干意識が低くなってきた。東日本大震災から9年目を迎えるが、防災教育を継続して行う必要性を感じる。

↓
個人やご家庭または地域など災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。

2 四つの重点目標について

(1) 調理科

- 4月の新入生歓迎昼食会や包丁式に始まり、大郷町での田植えなど家庭でも話題にできる行事が多かったため、専門科目への理解を深められたと考えられる。実技の試験が近づくと生徒達は家庭でも練習しており、資格取得に取り組む姿勢の評価に繋がっている。
- 一方で専門科目でも座学の授業は力が抜けているようだ。教職員はわかりやすい授業を心がけ、保護者も丁寧な指導をしていると認めていても、生徒達は意欲が備わっていないことを自覚している。各自の意識改革と教科指導におけるさらなる工夫の両方が必要である。
- 生活マナー向上や身だしなみなど、全体と比較して低い評価となっている。悪いと思っていながら遅刻が止まらなかったり服装で指導を受けたり、考えの甘い生徒もいるが、大半はきちんとできている。褒めて伸ばす指導も心がけたい。

(2) 介護福祉科

○ほぼ、全ての項目において、保護者は高く評価している。生徒は、定期考査への取組や進路指導で6割の生徒が不十分と考えている。生徒が積極的に取り組めるよう環境整備が必要である。また、部活動の環境について、生徒はやや不満を感じているようである。新校舎での環境整備に期待したい。

(3) 普通科・情報表現コース

○分かり易い授業、学ぶ姿勢・落ち着いた授業環境の項目についてはかなり肯定的な回答が多かった。一方、定期考査への取組、主体的・能動的な学習については否定的な回答が多く、まだまだ自ら積極的に学ぶという段階にはないという現状が分かる。しかし、わかりやすい授業や学ぶ姿勢の確立等が、前向きに学習へ向かう入り口であると捉えれば、この結果は必ずしもネガティブな要素ではないと言えるだろう。

(4) 普通科・デザインアートコース

○「わかりやすい授業内容」については、わかりやすいと感じている生徒は約6割に留まっている。学力に応じた指導の工夫 生徒にとっても教師にとっても、授業は一番大切な物である。実習を伴う授業はもっと数値が低いと思われるが、この数値はもっと上げていかなければならないと感じている。生徒の実態をみると、各個人の学力の幅が広いことがあげられる。個人の学力に応じた教材の準備が必要であると感じている。

○「検定・資格修得に向けた積極的な取組」が非常に高かった。

検定試験内容

- ①レタリング検定 ②トレース技能検定 ③家庭科被服製作技術検定
- ④パーソナルカラー検定 ⑤色彩検定

特に、原先生（ミスユニバース）を招いてのファッションショー講座に対しては、生徒の学習意欲が大変高く、検定試験への取組を高めている。生徒の実態、コースの特性に沿った結果と言える。ファッションショーを始めとする取組の成果が現れているといえる。

○キャリア教育 進路指導 の項目が低い。

学んだデザインを生かせる職業が残念ながら少ないことが、影響していると分析している。意欲的な生徒は、東京の専門学校に入学している。

(5) 普通科・総合コース

○総合コースの特色の一つである検定・資格取得について、保護者の「当てはまる」「少し当てはまる」の回答と生徒の回答の差が大きい。

(6) 普通科・健康スポーツコース

○学校内のルールやマナーについては生徒・保護者共に良い結果になっている。

○進路に関する回答を見ると、生徒の回答で「当てはまらない」の割合が半数以上になっている。担任の先生方は総合的な探求の時間などの時間に進路について考えさせる時間を多く設けているが、今後も今まで以上の進路に関しての手厚い指導を行って行く必要があると感じた。

○進路指導では、総合的な学習の時間を使用しキャリア教育を行っているが、何に繋がっているのか分からず取り組んでいるのではないかと感じた。「なぜ行うのか」をもう一度確認しながら取り組ませたい。

○学校内の生活についての質問の回答は全般的に、高評価だった。このまま意識を高く持たせながら学校生活を送らせたい。

(7) 教務部

- 「わかりやすい授業内容」に関しては、生徒・保護者の回答は昨年度とほぼ同等で、教員のみ、「当てはまる」と回答した割合が4.4%上昇した。教員の意識としては基礎基本を中心としたわかりやすい授業への意識が増加しているが、より生徒が実感できるように学習活動の目的や意図を伝えていく必要があると思われる。
- 「学ぶ姿勢・落ち着いた学習環境」に関しては、生徒・教職員で数値の向上が見られる。生徒は「あまり当てはまらない」が微減し、「当てはまる」が4.5%増加した。教員は「少し当てはまる」が-15%と大幅に減少し、「当てはまる」「わからない」がそれぞれ6~7%増加した。落ち着いた学習環境が整ってきていると感じている生徒・教員が増加している一方で、どのように評価すべきか判断に迷うという状況が見て取れる。
- 「定期考査の取組み」に関しても、生徒・保護者ははっきりとした変化は見られないが、教員は「少し当てはまる」が-17%と大幅に減少し、「当てはまる」「わからない」が7~8%増加している。教員の「わからない」が多く項目で増加していることは注目すべき点である。

(8) 進路指導部

- 進路指導や主体的・能動的な学習の項目で生徒からあまり良い回答を得られていないので大きな課題である。相当数の集会や説明会を実施しているが、量より質の向上が必要と思われていると考える。

(9) 生徒指導部

- 「⑩無遅刻・定時着席」、「⑪生活マナー向上」、「⑫校内ルール」について、生徒の達成度は何れも8割弱と概ねできているが、反面2割強の生徒が出来ていないことになり不十分であると考え。担任だけではなく全教職員あげて、家庭の協力を頂きながら9割以上を目指したい。
- 「⑬部活動の活発化」、「⑭部活動の環境整備」の達成度は6割強である。運動部は大会など対外的に多く活動しているが、文化部はコンクールに出る団体は多くない。文化部の校外で活動する機会を増やしたいと考える。

3 学校諸活動について

(1) 調理科

- 生徒会本部役員や委員会活動に関わる生徒が多く、その活性化に向けて努力していると自負している。各地域でのイベントに積極的に関わらせたい。調理科の特色を生かした行事は、保護者からも好評である。PTA研修のてんぷら・蕎麦打ち講習は、授業で学んだことを生徒が発表する形式で実施した。食に関する体験学習は、今後も提供していきたい。

(2) 介護福祉科

- 学校行事には意欲的に取り組んでおり、保護者も含めて満足度は高い。生徒会活動等へ積極的に取り組めるよう配慮したい。

(3) 普通科・情報表現コース

- キャリア教育、進路指導共に昨年度同様で否定的な回答が多かった。コースとしては、事ある毎に声かけはしており、「オタクからの脱却」テーマに自己完結の知識やスキルではなく、今世の中で何が求められており、その中で自分をどう活かすかを考えさせているのだが、コースだけではなかなか浸透しきれない部分もあるように思える。進路部とも相談しながら、もっともっと現在の自分を将来の自分につなげて考えられるように促す必要はあるだろう。

(4) 普通科・デザインアートコース

○委員会へ活動への意欲は低いですが、学校行事への意欲は高い。他のコースとの交流を楽しんでいる。3年間、1クラスであるので、学校行事を通して学級の輪を深めるとともに、他のコースとの交流を楽しんでいるのではないかと思われる。

(5) 普通科・総合コース

○行事を大切にしている本コースの取り組みに対して、生徒・保護者とも満足度は高い。ることがうかがえるので、更に努めていきたいと考える。

(6) 普通科・健康スポーツコース

○学校行事では、修学旅行や学園祭、体育祭など生徒達は積極的に参加している様子があった。今後どの場面でも活躍できるようにさせたい。

○ボランティア活動については、各部活動などに任せているところがある。コースとして地域でのボランティアや部活動単位での出前部活動などを行いたいと考えている。

(7) 進路指導部

○漫然と日々を過ごすのではなく、高校生活で頑張ったことを、より多く答えられるようにすることが進路決定に役立つことを今まで以上に伝えていきたい。

(8) 生徒指導部

○学園祭については、ステージ発表は文化部が中心に、展示・模擬店はクラス単位が中心になり盛大に実施できた。体育祭については、事前準備を十分に行い、関係各方面の協力があり大きな事故なく無事終了。来年も生徒の意見を積極的に取り入れ、一体となって取り組める行事にしたい。

○ボランティア活動参加について、肯定的な回答が2割弱と落ち込んでおり、東日本大震災の防災意識が薄らいでいると思われる。本年度の主な活動は台風19号で水害にあった大郷町への募金お見舞いや炊き出し、清掃ボランティアがある。10月に仙台大で予定の「東北こども博」は中止となった。ボランティア活動を通じて奉仕の心を育みたい。

4 高大連携について

(1) 調理科

○仙台大学へ授業での訪問はなかったが、教育実習生が来たことで身近に感じた生徒もいたようだ。次年度は、施設利用に関して見学から始めたい。

○運動栄養学科には4名が進学する。新学科では高大の学びがつながっていく仕掛けを増やしていくので、進学希望者に適切な進路指導をしたい。

(2) 介護福祉科

○仙台大学施設を利用した授業は1回のみであった。次年度以降、複数回実施できるよう計画したい。また、施設利用時に大学進学を目指すきっかけ作りができるよう配慮したい。

(3) 普通科・情報表現コース

○総合的な学習の時間において、大学の全面的なサポート下でダートフィッシュを活用した授業を展開している。今年度もそこで学びを深めた生徒が仙台大へ進学する。しかし、生徒の回答からは仙台大との連携は意識が高くないということが窺える。今後は、附属高校化に伴いさらに連携を意識させるような活動を行っていきたい。

(4) 普通科・デザインアートコース

○全体的に低い結果となっている。コースの特性上直接的な連携が取りにくい面があげられる。より積極的に連携していくよう工夫していきたい。

(5) 普通科・総合コース

○全体平均とほぼ同じパーセントを示している。新科・コースに伴い大学の施設利用や情報の活用を充実して考えていきたい。

(6) 普通科・健康スポーツコース

○大学の施設利用は、距離や時間の問題で授業内での使用が非常に困難な状況がある。スポーツ創志科については大学の施設を利用する予定になっているが、大学ならではの施設を使用し、授業などが行えるとより良い成長に繋がれると考えている。

○近くて遠い大学が仙台大学の位置づけだと思う。姉妹校ではあるが、大学との関係が薄い。もっと連携を取りながら授業などを行えると生徒達は仙台大学にもっと興味関心を持つと思う。

(7) 募集事業部

○仙台大学附属高校になることによって名実ともに連携が深まっていくことだろう。

(8) 進路指導部

○今年度は過去最高数程度の生徒が仙台大に進学したが、受け入れる側も進学先の候補として今年以上に選ばれるようになるために、本校生徒に対し他校から来る学生と同様の扱いをしないと一過性に終わるのではないかと。

(9) 生徒指導部

○4月開催「新入生研修合宿」では仙台大教員と学生にレクリエーション指導をしていただいた。新入生には大変好評で新しい仲間作りに大きな一助となった。1年次から進路の一つに仙台大があがる絶好の機会でもあると考える。

5 家庭生活について

(1) 調理科

○各教科から指示された課題を提出するだけでも、家庭で机に向かう習慣づけになるので、まずは宿題に取り組ませるように各家庭に御願いたい。

○各学年とも欠席は少ないので、中学時代につまづいた経験のある生徒達には大幅な改善とも言える。社会に出る前の欠かせない準備として、どの生徒にも基本的な生活習慣を身に付けさせたい。

(2) 介護福祉科

○家庭学習の実施は4割程度に留まっている。多くの生徒は学内で勉強する習慣がついているが、家庭でも学習するような課題を考えていきたい。基本的な生活習慣は、生徒・保護者とも高い評価であるが、深夜のスマホ利用から授業中の居眠りにつながっている様子が見られるため、家庭の協力を得ながら注意喚起する必要がある。

(3) 普通科・情報表現コース

○家庭学習については科・コースというよりは学校全体の問題と捉えた方が良い。家庭でやらないのであれば、学校にいる間にいかに学びを深められるかを考えてみてほしいのではないだろうか。

(4) 普通科・デザインアートコース

○家庭学習の時間が、学校全体と比較すると低くなっているが、作品制作に多くの時間をかけているファッションショー前は、夏休みも登校して制作に取り組んでいる。これらの時間も家庭学習にいれると家庭学習の時間は実際にはもっと多くなると分析している。

(5) 普通科・総合コース

○教科と連携をして対応していきたい。回答⑦については、保護者の「あてはまる」「少しあてはまる」の回答率は高い。更に努めていきたい。

(6) 普通科・健康スポーツコース

○家庭学習の習慣では、生徒のあまり当てはまらないという回答が多かった。コースで自主学習の取り組みを行っているが定着していないことがこの結果でわかった。どのように進めていけばよいのか工夫が必要だと感じた。

○基本的な生活習慣では、ほとんどの生徒がしっかりと行っていると感じている。このまま継続させていきたい。しかし、ごく一部分の生徒の遅刻や欠席が多いと感じる。新年度を迎える前に面接などを行い改善させたい。

(7) 教務部

○「家庭学習の習慣」に関しては、生徒・保護者・教員ともに数値に大きな変化は見られない。」生徒の学力差が開いている現状への対応としても、家庭学習を習慣化させるための取組みを実行していかなければならない。

(8) 進路指導部

○生徒・保護者ともに、家庭で勉強しないという回答が非常に多く残念であるが、学校側に厳しさが欠けている部分もあると考える。手と目をかけるのは当然だが、一步間違えれば、それは甘やかす可能性があり、さじ加減が難しい。

(9) 生徒指導部

○「基本的な生活習慣」は肯定的にとらえている生徒は多いが、3割は否定的評価をしている。否定的な理由の一つにSNSの夜遅くまでの利用も考えられる。家庭での利用ルールを設け規則正しい生活を送ることを働きかけたい。

6 その他

調理科

○自由記述欄に、昨年同様に「授業中うるさい」と書かれていた。障害があると明確に診断されていなくても、静かに座って授業を受けられない生徒もいる。他人との距離感をつかめず、コミュニケーションに問題を抱えるケースや、高校での大規模な生徒数に馴染めないケースなど、多様な事例が発生する。まず、好きなことを見つけて、他にも頑張れることを探しながら、教科担当者と担任の連携を図りたい。

○保護者の意向を聞く機会は少ないため、今回のコメントから学ぶことも多かった。家庭での会話から、本校の教育活動への期待を記入する保護者もいれば、パワハラなどを心配する声を寄せる保護者もいる。子どもの成長は学校、家庭ともに関わる重要な要素であり、保護者の意見に謙虚に耳を傾けていきたい。

介護福祉科

- 2月に実施した学習成果発表会では、多くの保護者が来校した。各学年の発表において、全員が発表に関わるようにした内容が大きかったと思われる。また、会のネーミングもこれまでの「ケア研究会」から変更したことも、保護者が来校しやすい結果につながったと思われる。今後もそのような企画を検討したい。

普通科・健康スポーツコース

- 奨学生生徒を多く抱えるコースとして、学校全体を引っ張っていく位置付けにあると考えている。生徒にもその自覚を持たせることが必要だと考えている。
- 部活動の悩みでつまづく生徒がやはり1年生が多い。生徒の進路変更に関係していると感じている。奨学生で入学してくる生徒以外の部活動体験の実施が必要ではないかと考えている。